

これからのがんチーム医療に期待される薬剤師の教育 ～薬剤師の立場から～

順天堂大学医学部附属順天堂医院薬剤部 田嶋 美幸

チーム医療がさけられる昨今、我々薬剤師を取り巻く環境も大きく変化しつつある。その大きなひとつが薬学部6年制である。薬剤師国家試験の受験資格を得るためには、医師と同じ6年の教育が課せられるようになった。ここでは、臨床の場で活躍できる薬剤師を育成する事が大きな目標となっており、実務実習に重点が置かれている。各大学は、工夫をこらした独自の新カリキュラムを打ち出している。

一方、すでに薬剤師として勤務している我々薬剤師の卒後教育も様変わりしている。新薬の知識を吸収するだけではなく、治療に関する幅広い知識を必要とし、さらに専門性が求められてきた。医師や看護師と同様、認定薬剤師や専門薬剤師の資格制度も次々に定められている。これらの変革は、社会が薬剤師に期待することが大であることを意味し、今後、薬剤師が臨床の場で活躍できるチャンスとも言えよう。

とくに、国を挙げてのがん対策に応じ、患者の安全を守り、より有効な薬物治療を行うために、がん専門薬剤師の必要性が高まっており、研修制度、研修施設も充実してきている。チームの中で薬剤師の専門性を発揮し、他のスタッフからの信頼を得るためには、安全で正確な調製はもとより、薬剤師ならではの視点から EBM を評価、利用できる力や EBM を作り発信していく力をつけていかねばならない。そのためには実際の臨床経験の積み重ねが重要であるとともに、教育の拡充が求められる。また、チームの一員としての責務を自覚し、専門性を高め、チームの中のスタッフそれぞれがリーダーシップを発揮することが重要であり、薬剤師教育の中でリーダーシップやコーチングといった知識も必要となっていくであろう。

チーム医療の中心は患者であり、患者を取り巻く医療スタッフは、常にそれぞれの専門性を認め相互理解を深めて行く努力が必要である。チーム医療を実践する事は患者の利益はもとより、医療スタッフの業務の充実が期待されることと信じている。